

# いちごつうしん 苺通信

加古川市立平岡北幼稚園  
令和4年度 No.6  
R5.1.30

～ワクワクひらきたっ子～



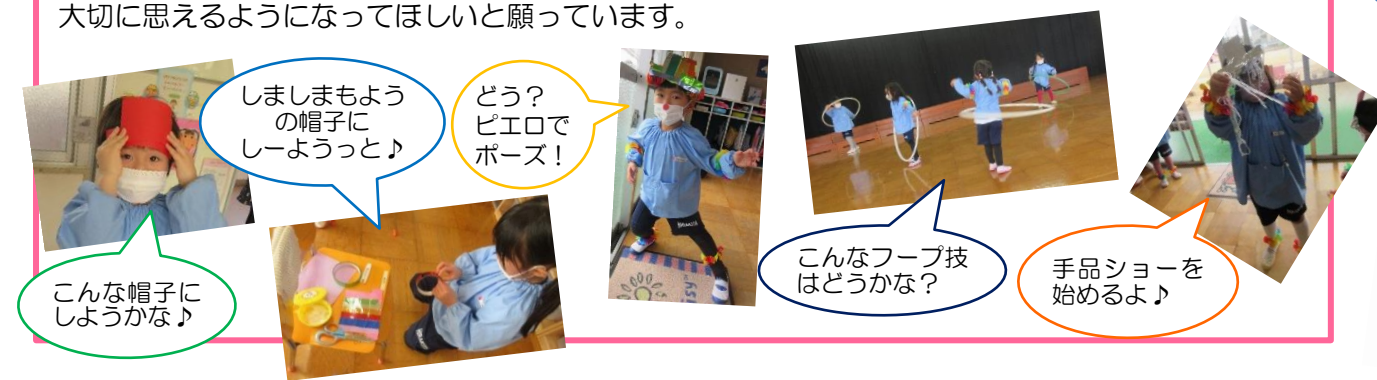
## はなぐみ

サーカスの絵本を読むうちに、「サーカスやってみたいなあ」と言い始めたはな組。サーカスは得意なことや楽しいことをするというイメージをもっている子ども達と、「サーカスでどんなことする？」と話し合うと、歌やダンス、フラフープ、楽器等、自分たちが経験したことや好きなことが次々に出てきました。

ある日、フラフープを転がして遊んでいると、フラフープが友達の所へコロコロコロ～それを友達がキャッチ！それを見て、「おもしろいなあ！やりたい！」と、友達とフラフープキャッチが始まりました。「これ、サーカスでしたい！」ということで、フラフープ使いのフープちゃんの技の一つに決めました。自分たちでひらめいたことを取り入れながら、どんどんサーカス遊びが楽しくなってきました。

また、「サーカスで手品したい」と、言う話から、「手品って何？」と、説明を聞いてもピンとこない様子・・・そこで教師が手品をして見せることにしました。すると、「えーどうしたこと！？」と、びっくり！そして「やってみたい！」と、さっそく伝授し、はな組にちびっこマジシャンが誕生しました♪「何もありませんって、手とかおなかを見せてからするんだよ」「じゃーんってしたらカッコいいね」と、保育室でも積み木を舞台に見立てて、お客さん役の教師や友達に見せて手品の技を磨いていました。「お客さんに見てもらったらいいんじゃない？」「拍手いっぱいしてくれるかな」と、年長児やお家の人に見てもらうことも楽しみにするようになってきました。

サーカスのイメージで遊ぶ中で、大きい声を出すことや、思いきり体を動かして表現することの気持ちよさや楽しさを味わったり、誰かに見ってもらうことの嬉しさを感じたりしてほしいと思っています。また、友達の表現を見たり、一緒にしたりする中で、一緒にいる楽しさや嬉しさを感じ、友達を大切に思えるようになってほしいと思っています。



## ぞらぐみ

12月頃から始まったサーカスごっこ。サーカスについて知っていることを話したり、「動画でみた」「お父さんに教えてもらった」等と家で聞いたことや調べたことを友達に伝えたりしながらサーカスでしたいことや見てもらいたい技について考えました。また、絵本を読んでサーカスには司会があることを知ったり、司会は「黒い服を着たい」「蝶ネクタイをつけたい」と衣装について考えたりし、その衣装を身に付けて張り切って司会に挑戦する子ども達です。

サーカスのこま・縄跳び・ダンスのグループでは、友達と考えを出し合いながらそれぞれのグループでどんなことをしたいかを考えました。入場の仕方やこまを回す順番、縄跳びでどんな技ができるかやダンスの振付など、グループの友達と話し合ったり、実際にやってみたりしながら決めていきました。子ども達は自分なりの考えをもち、友達に伝える姿が見られるようになっています。一方、友達の思いを聞くことが難しかったり、自分の思いを押し通そうとしたりし、最初は上手く話し合いが進まないこともありました。その都度、自分の考えを伝えることも大切であるけれど、聞くことの大切さも知らせ、友達の考えに耳を傾けられるように言葉を掛けることで少しずつ、友達の考えを聞き、受け入れられるようになってきています。繰り返し遊ぶうちに「もう一回最初からやってみよう」「私が台詞言っている？」等と声を掛け合い、自分たちで進める力もついてきています。子ども達は司会で言葉を言ったり、道具を出したりする役割にも積極的に挑戦したり、友達が挑戦している姿を応援したりしながらみんなで作り上げることを意識して取り組んできました。

発表会遊びを通してサーカスのイメージを膨らませ、自分の思いや考えを十分に発揮し、その喜びを感じたり、友達と考えを伝え合い、共通の目的に向かって友達と作り上げていく面白さや充実感を味わったりしてほしいと思っています。また、友達と一緒に作り上げる充実感や達成感が自信へとつながってほしいと思っています。

